飛田雄一

「韓国岳」から韓国はみえませんでしたが、「開聞岳」から種子島はみえました

開聞岳頂上の筆者　2023.6.4

2023年6月

●

開聞岳（かいもんだけ、鹿児島県）に登った。
2017 年、つれあいと屋久島縄文杉登山の帰り、飛行機からその姿をみたのだ。
登らねばと思っていた。

2017 年、屋久島からの帰路、飛行機から見た開聞岳。三角形の山／75 歳までの広告／フェリー「たかちほ」

クラブツーリズムの案内にあった。開聞岳と韓国岳（からくにだけ)。）１）宮崎フェリー神戸港から宮崎、２）韓国岳登山、指宿温泉宿泊、３）開聞岳登山、宮崎フェリー、４）神戸港着

その案内に、「75 歳まで限定」とあった。先月 73 歳となった私、これはひょっとしたらラストチャンスかも、行かねばと、申し込んだ。
ホテルは、１名１室で 64,800 円。ちなみに２名１室では 56,800 円。

船旅は好きだ。新婚旅行で八丈島、三宅島にいったくらいだ。関釜フェリーにも乗った。ダイアモンドプリンセスで釜山にも行った。コロナ事件の前だ。ダイアモンドプリンセスを勧めてくれた自転車の師匠・林榮太郎さんはこのクルーズの常連で、コロナのときにも乗船していた。その様子を Facebook で発信し、テレビにも出演していた。

●

出発前日の６月１日（木)、クラブツーリズムから電話があった。

台風２号が来ています。旅行中は好天の予報ですが、フェリー運航が未定です。
またフェリーのコースも、台風のために太平洋コースから瀬戸内海コースに変更の可能性もあります。その場合、韓国岳に登れない、指宿ホテルに直行の可能性もあります。行きますか？

私は、即、行きますと返事。開聞岳が本命だ。
台風２号はおおきかった（低かった？）。発生時は 905 ヘクトパスカル。徐々に弱くなったとはいえ大きな台風。フェリー欠航の可能性も高かった。
欠航の場合は、当日10時ごろに決まります、欠航のときは昼12時までに電話します、とのこと。

台風は、当初、鹿児島が暴風圏に入りそうだった。だんだんとコースが東に傾いて、韓国岳がだめでも開聞岳は登れるかもしれないと考えていた。

●
６月２日（金）、電話をまった。なかった。ＯＫだ。
出航は午後７時 10 分、集合は６時 10 分。荷物をまとめて家をでた。
豪雨だ。三宮駅からフェリーターミナルまでの間にびしょびしょになった。

そして、出航。
出航時間までにレストランに入り、バイキング 1600 円、缶ビールロング 350 円。
出航のときには、出来上がっていた。

コースは、本来は四国の南・太平洋コース。が、今回は台風の影響で瀬戸内海コース。
明石海峡大橋の夜景を下からながめた。きれかった。
日は沈んで、島影は見えなくなった。風呂に入って寝た。

●
６月３日（土）朝、豊後水道を過ぎて太平洋にでたのか、船が揺れだして目がさめた。
船酔いかビール酔いか分からないが、揺れている。
明るくなって甲板に出た。快晴だ。うれしい。

7 時、レストランがあいたので、朝食バイキング 600 円。それなりにおいしかった。

予定の 8 時 40 分には 2 時間ほど遅れたが、無事宮崎到着。
韓国岳に登れる。
バスで霧島・えびの高原に出発した。
韓国岳は霧島連山の最高峰。霧島山が日本百名山にあることは知っていたが、霧島山という山がないことは初めてしった。霧島連山の最高峰が韓国岳 1700M だ。

その韓国岳、由来はなにか？
ウイキに、「「唐国岳」と表記されることもあるが、国土地理院国土基本図では「韓国岳」と表記されており、本項では韓国岳と表記する」とある。韓と唐の漢字が日本では、混同あるいは入れ替わることがあると聞いたことがある。

登山ガイドを何冊か読んだが解説がない。現地で配られたガイドブックのコピーに以下のようにあった。

「隣国の韓国まで見わたせることから韓国岳と称されるようになったといわれるだけあって、眺望がすばらしい（藤元涼子）」

ふむ、これはやはり豊臣秀吉の朝鮮侵略のときに、この地に連れてこられた朝鮮人陶工たちが故郷を思ってつけた名前かもしれない。

韓国岳登山道から硫黄山。ゴーという音が聞こえる／赤い屋根のところからだいぶ登ってきました／？？

韓国岳登山道から北方／ミヤマキリシマ／同、ちょっと遅かった？

韓国岳頂上付近から大浪池／むこうに見えるは高千穂峰／山頂です。快晴です（なぜか左右反転）

12 時、登山スタート。
登り 2 時間、下り 1 時間半という。15 名のメンバーは、2 班に分かれて登り始めた。ガイド A さん班と B さん班。私は A 班だった。植物にも詳しく、霧島連山の火山活動などにも詳しいやさしいガイドだった。B 班のガイドは、かわいいアニメ T シャツが似合イケメンガイドだった。Aさんもイケメンでした。

最近、ちゃんと登山をしていない私、けっこうきつかった。遅れ気味だったがみんなやさしくしてくれた、無事登頂した。

頂上近くで有名なスタントマン・倉田保昭にあった。『闘え!ドラゴン』、『直撃! 地獄拳』、『女必殺拳 危機一発』などに出演していた。麓でスタントマン／スタントウーマンの養成学校をつくっている。若い門下生 40 人ほどが元気に降りてきた。私は、しょぼしょぼと最後の力を振りしぼって登っていた。

韓国岳頂上では、360 度の展望を満喫した。この前景の動画は Facebook にはりつけた。静止画は、ここにはりつけた。元気になっている。

韓国岳頂上より見える火口／案内板で韓国岳山頂はこんなかんじです。右の火口へは 300M の断崖絶壁／？？

無事下って韓国岳をふりかえる／こんな位置関係です（これも左右反転）／白いミヤマキリシマも？

ルンルン気分で下山した。そして、バスに乗り込んだ。
えびの高原登山口から、指宿温泉・指宿フェニックスホテルにむけて出発した。
指宿温泉と言えば砂風呂。入ったことはない、入りたい。ホームページをみると豪華な夕食、楽しみだ。

バスが動き出して、ツアーガイドが話し出した。

フェリーが台風の影響で遅れましたが、なんとかスケジュール的には 1 時間半程度の遅れとなっています。ホテルには、7 時半ごろにつき、8 時の夕食にまにあいそうです。ホットしています。みなさん、フェリーそして韓国岳登山ごくろうさまでした。

が、トラブルがおきた。
バスがドライブウェイ途中の駐車場に入って停車した。ドライバーが足元をごぞごぞと触っている。
最前列に座っていた私には、ドライバーのひとりごと？、本社との電話内容が聞こえる。

アクセルが戻らないみたいだ。アクセルの踏みっぱなし状態？になっている。こわい。エンジンルームをのぞいたり、運転席にもどったり、会社の技術者と電話をしたり、ガイドと話したり。

駐車場で待機？するバス／この駐車場です／トイレのミヤマキリシマ

そして、ガイドより発表があった。

故障です。アクセルの故障です。別のバスかタクシーを手配します。申し訳ありませんが、ホテル到着が遅くなりホテルで食事ができません。途中のドライブインで自由夕食となります。

自由夕食？　そういえば、出発前日のクラブツーリズムからの電話で、そんな言葉もでていた。自由夕食というのは、まさに、ツアー料金に含まれない食事で、各自で代金を支払ってする食事のことらしい。

2 時間近く駐車場でまったのち、交替のバスがきた。タクシーではなかった。大型バスだ。それまの 24 人乗りのバスではなくて大型バスだ。それはうれしいが、私たちの責任ではないのに、自由夕食とは、納得がいかない。メンバーの 15 名は私も含めて紳士淑女、どうしてくれるんや、という声はでない。ガイドとドライバーに同情的な雰囲気が支配していた。

ガイドがバス会社と交渉している。そして再びアナウンスがあった。

あす帰りのフェリーの夕食バイキング 1600 円をバス会社で負担させていただくことになりました。今夜のドライブイン夕食は各自で支払ってください。ほんとうに申しわけありません。

代替バスが来るまで、駐車場で和歌山からの 4 名の女性グループと仲良くなって話しがはずんだ。
内 2 名は、私と同じ 73 歳。75 歳まで限定という案内をみて参加したという。
今回のトラブルでバス会社はどんな補償をするのか？
4 人のおばさんは、たいしたことはない。夕食代 1000 円程度を払ってくれるだけだ。
私の説は、そんなことはないだろう。会社としてはあってはならないミス。3000 円ぐらいは出すだろう。ドライブインでは、上等を注文して、ビールも飲もうではないか。

結局 1600 円の補償で、あばさんたち説の金額に近かった。
去年、クラブツーリズムのバスがブレーキの故障？でひっくり返る事故があったことも思い出した。
今回、ブレーキ故障にドライバーが気付いた。それもこれから急坂下りという場所で気づいた。幸いだったといえるかもしれない。気が付くのが遅ければ、谷につっこみ大惨事になっていたかもしれない。ほんと。

ということで、みな、それなりに納得した･････････。
ドライブインは、「桜島」。ガツンと食べたかった私は、鹿児島黒豚丼を注文。ビールは、高速道路でノンアルしかないというのでやめた。

そして、午後 9 時過ぎ、指宿フェニックスホテルについた。10 時までという砂風呂に入ったメンバーもいたが、私は普通の風呂に入った。そして、ビールを飲んで寝た。
ひとり参加の私は、大きな和室にひとり。荷物を大きくひろげて荷物を点検し、明日の開聞岳登山の準備をして寝た。

●
6 月 4 日（日)、開聞岳の日。
かの深田久弥『日本百名山』に、以下のようにある。

「しかし高さこそ劣れ、ユニークな点では、この山のようなものはほかにないだろう。これほど完璧な円錐形もなければ、全身を海中に乗りだした、これほど卓抜な構造もあるまい。名山としてあげるのに私は躊躇しない。」

前日の登山ガイドは、開聞岳は韓国岳よりたいへんですよ。最後の急登はすごいですよ、韓国岳はそのトレーニングのようなものですよ・・・・・・・・。だいぶ脅されていた。緊張する。
朝は、7 時 15 分ホテル出発。朝ごはんは、ホテル準備の弁当。バスのなかで食べるようにとのことだった。私は、ホテルロビーでささっと食べた。

指宿ホテルの部屋から／開聞岳に登ります／５合目、ここまで登ってきました。１０合目が頂上です

定刻にバスは出発した。40 分ほど走り、「かいもんふれあい公園」。開聞岳は、標高 924m。六甲山は 931m、勝った！　でも海から直登だ。 歩行約 7.5km、約 5 時間とある。
公園で、昼の弁当を受け取った。

開聞岳のガイドは、ご夫妻。グループ A は奥さま。B がだんなさん。どちらもやさしい感じ。
A グループの私たちがまず出発した。コースは、山を時計回りに回る。富士山よりきれいな円錐型の山なのでそのようなコースがつくれる。そして登り下りのない、ただただ登りの登山道が続く。

登山口の公園は、2 合目にある。そこからスタートした。ずんずんと登る。が、私は遅れる。最近ちょっと六甲山に行くだけなので体力がおちている。少しずつ遅れるのだ。4 番手に歩いていたが、途中にガイドから、あなた 2 番手に来てください。うれしいよ

うな悲しいような。他のメンバーもその方がいいという感じだ。

おいしいイチゴ？？／いい天気です。雲を写すのが大変なくらいの快晴です／開聞岳頂上の筆者

2 番手となった。その方がよかったかもしれない。すぐ後ろの私を見ながらガイドさんはペースを落としてくれた。そうだ、私がペースメーカーになれるのだ。わざとガイドとむだばなしをしながら、どうせ覚えられない草の名前を聞いたりしながら、ガイドの足を引っぱりながら、登った。そのおかげがあって、バテることなく頂上にたどりついた。うれしい。

開聞岳頂上も快晴、無風。ここの動画も Facebook には貼った。見れる人は喜びを共有してほしい。写真もとってもらった。ここに貼った。
大隅半島、イッシーという怪物が住む池田湖、種子島、知覧が見える、屋久島は残念ながらかすんでいて見えなかった。

写真をとってから弁当。B グループがなかなか着かないが、先にいただくことにした。立派な弁当だったが完食した。うれしい。山でバテると食事どころではなくなる。

B グループも到着した。だいぶ疲れているようだ。なのに、元気な A グループは下山しようという。薄情だ。
私も下山した。同じくガイドのすぐあと 2 番手に位置して、安全に下山した。ガイドのすぐ後を歩くのはけっこういい。
ヨーロッパのスキー学校では、教師のすぐ後の生徒は料金が高いと聞いたこともある。今回、そういうことはなかった。

B グループは、最後はせかされて降りてきた。ぐったりしていた人もいる。フェリーの

時間があるのでやむをえないとはいえ、辛かったと思う。

かいもんふらあい公園では、グランドゴルフをしていた。広大は天然芝のコートで、約 20 名。鶴甲公園でグランドゴルフをよく見るが、こんな広大なところでなら私もしてみたい。

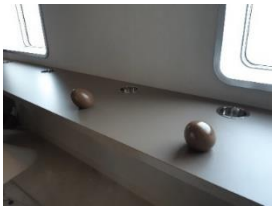
かいもんふれあい公園でのグランドゴルフ／ツバメもいます／フェリーデッキよりの「ストロベリームーン」

バスはそこから宮崎フェリーまで3時間。南九州の自然はゆたかだ。体を休めながら、また中島みゆきを聞いた。歌の中にけっこう「猫」がでてくるのに気が付いた。
文庫本の中島みゆき歌詞集に、「私がまだ猫だったころ」というのもあった。気になっているが、その歌はまだ聴いたことはない。

宮崎フェリー乗り場に着いた。バス会社の部長が待ちかなえていて、お詫びの言葉をのべた。チーズのお菓子もくれた。
出航まで40分。まあまあだ。船は「ろっこう」、新造船だ。これに乗りたかったのだ。が、なんと、構造は往路の「たかちほ」とまったく同じ。宿泊のドミトリーの部屋番号も同じだ。船内の壁紙の色がちがう、船が新しいということが、ちがうところだ。

午後 7 時 10 分、予定通り出航した。勝手しったるレストラン、バス会社がお詫びにくれた 1600 円の入場券をもって入った。同じ窓際の席を確保してバイキングそしてビール。ひとりで乾杯した。
帰路は、太平洋コース。台風も遠くに去って、快適な船旅だ。

ビールがまわったので、お風呂もやめて寝た。が、なぜか、目がさめてしまった。お風呂に入った。快適なお風呂だ。泳ぐほどの広さはないが。



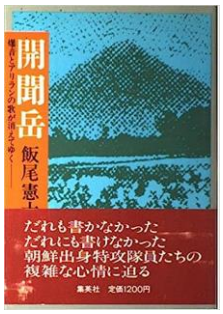
救命具、使わなくてよかった／このボールなにか分かりますか、船が揺れたときにつかむそうです／新造船「ろっこう」

満月がきれい。雲一つない。海面で月の影が光っている。先の写真以上にきれいで、幻想的だった。デッキで、だいぶ長いことながめていた。
ガイドが、ストロベリームーンというと教えてくれた。たしかに？おいしそうだった。
私の Facebook の投稿に、「6 月の満月はストロベリームーン、アメリカ先住民の農事暦から、とも聞きますが、何とも可愛らしくいい名前ですね」とコメントしてくれた方もいる。なるほど。

寝床では、エンジンの振動が小さく伝わる。それが、筋肉をほぐしてくれているようだ。こんどは、やすらかに寝入った。

●

6 月 5 日（月）。朝、目がさめた。船はすこしゆれている。神戸港が見えてきた。
上陸した。歩いて三宮までいった。往路のどしゃぶりとは、うってかわって、いい天気だった。神戸税関、東遊園地、花時計、サンチカ。少々思い足をひきずってＪＲ三宮、六甲道、そしてわが鶴甲団地に帰った。



神戸花時計／飯尾憲士『開聞岳ー爆音とアリランの歌が消えてゆく』

●

今回、飯尾 憲士『開聞岳－爆音とアリランの歌が消えてゆく』だけを持参した。開聞岳山頂から特攻基地・知覧も見えた。フェリーでもホテルでも一行も読めなかった。疲労とビールとお風呂のせいだ。これから読んでみようと思う。

出発前日のクラブツーリズムからの電話に負けて？、キャンセルした人が6名いたという。その方々に、ほんとうに同情する。

開聞岳に登りたいという硬い意思が、台風をはねのけ、快晴無風大成功の登山を実現させてくれた。うれしい。

飛田雄一（ひだ　ゆういち）
1950 年神戸市生まれ。神戸学生青年センター理事長、むくげの会会員など。著書に『極私的エッセイ―コロナと向き合いながら』、『ゆうさんのハイキング生活』などがある。hida@ksyc.jp

---

「韓国岳」から韓国はみえませんでしたが、
「開聞岳」から種子島はみえました

2023 年６月１５日発行
編集・執筆・発行　飛田雄一
〒657-0011 神戸市灘区鶴甲 4-3-18-205
e-mail　hida@ksyc.jp